



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	障害を持つ幼児・児童・生徒の「みる・よむ・発表する力」の育成と効果的方法を探る：LLブックとマルチメディアデジターの応用から(fulltext)
Author(s)	田口,悦津子; 蓮香,美園; 仲野,真史; 沼澤,聡子; 橋都,由美子; 野原,隆弘; 澤,隆史; 小林,巖
Citation	東京学芸大学附属学校研究紀要, 47: 83-87
Issue Date	2020-07
URL	http://hdl.handle.net/2309/159376
Publisher	東京学芸大学附属学校研究会
Rights	

障害を持つ幼児・児童・生徒の「みる・よむ・発表する力」の育成と効果的方法を探る

— LLブックとマルチメディアデイジーの応用から —

東京学芸大学附属特別支援学校	田 口 悦津子
東京学芸大学附属特別支援学校	蓮 香 美 園
東京学芸大学附属特別支援学校	仲 野 真 史
東京学芸大学附属特別支援学校	沼 澤 聡 子
東京学芸大学附属特別支援学校	橋 都 由美子
東京学芸大学附属特別支援学校	野原隆弘(代表)
東京学芸大学	澤 隆 史
東京学芸大学	小 林 巖

目 次

1. はじめに	84
2. 研究の内容	84
2.1 学校司書と協働の学習環境設定	84
2.2 マルチメディアデイジーとLLブック	85
3. 研究経過	86
3.1 学習の順序立て	86
3.2 発表会までの取り組み	86
3.3 授業作りと評価	86
4. 考察とまとめ	87
研究資料	87

障害を持つ幼児・児童・生徒の「みる・よむ・発表する力」の育成と効果的方法を探る

— LLブックとマルチメディアデイジーの応用から —

東京学芸大学附属特別支援学校	田口悦津子
東京学芸大学附属特別支援学校	蓮香美園
東京学芸大学附属特別支援学校	仲野真史
東京学芸大学附属特別支援学校	沼澤聡子
東京学芸大学附属特別支援学校	橋都由美子
東京学芸大学附属特別支援学校	野原隆弘(代表)
東京学芸大学	澤隆史
東京学芸大学	小林巖

1. はじめに

幼児・児童・生徒の学習環境や社会情勢

特別な支援を必要とする子供たちの興味・関心事はマスメディア、インターネット等の普及で視覚的な情報があふれ、その内容も多岐に渡っている。しかし、本人が自分で考えて物事を理解するには、目で見ると（情報機器映像を含む）、体験する、考える、それらを一致させるなど各々の段階が必要である。かつ、一人ひとりの障害の特性等もあり、数々の取り組みが待たれる。今回の研究テーマは、障害を持つ幼児・児童・生徒の本を読む等の学習活動の中で、主に中学生段階の学習に視点をおき、「総合学習」の取り組み例を検証しながら、課題とする一人ひとりの「みる・よむ・発表する力」の関係性を追うことにした。

また、特別な支援を必要とする生徒の「みる力・よむ力」等の特徴は、環境にも左右されやすく、一概に直線的な右肩上がりとはならないこともある。本研究内容は中学生の「調べ学習」に特化し、そこを課題設定の的としたが、特別な支援を必要とする生徒にとってこのテーマは時間が掛かる課題でもあり、時間を掛ける内容でもある。

本の利用における現状と課題

本校には図書館機能を十分に持つ学校図書館は設置できていないが、生徒が本を必要とし、本を読みたい時に、最低限の本等を各部の教室の近くに置くようにしている。利用者の身近に本があるということが、利用を日常的なものとし、興味ある内容の本が近くに置かれ、必要な時にすぐに手に触れられることを基本としている。校内の利用しやすい数カ所のスペースに、内容別に並べられ取り出しやすくなっている。月に数回が出勤日の学校司書が主に管理し、学習活動に利用している。これらのことを踏まえ、ここ何年かの取り組みから今回のテーマとする「みる・よむ・発表する」力との関係を考え、その学習の効果的方法を見だし研究の流れをつかむことにした。

2. 研究の内容

2.1 学校司書と協働の学習環境設定

学校内にある図書コーナーの蔵書を使い、幼児は、布絵本や音声付きの絵本などを応用し、担任とともに「触れる・さわる・見る・聞く」等の学習チャンスを遊びの中に取り入れて実践を行った。小学生の実践では、読み

聞かせを中心とした物語の場面の理解や言葉の発達を促すなどの取り組みを通して、好きな本ができるように子供の反応を見ながら実践してきた。また、学校司書は、給食等のちょっとした時間を有効活用し、児童の生活上の課題や実態をつかみ、必要とされる時に絵本の読み聞かせ等に繋げて関わった。

一方、中学生や高校生では、林間学校や修学旅行の学習で、宿泊先「群馬・山梨・北海道・沖縄・関西」等の自然環境や現地の民芸品やお土産、文化的財産等の調べ活動をテーマと

した事前学習の環境設定を担った。更に単元担当と学校司書が協働し、その学習で必要な内容の本を揃えて臨んだ。また、学習時に適当な資料本がない場合には、地域図書館への働きかけを行い、学校司書が借りる手はずを整え図書館連携を率先して行った。

これらの生徒への支援を通して、本や情報ネットワークの利用により概要を実践的につかみ、調べ学習等の授業実践に協働して参加する形が定着してきた。

2.2 マルチメディアデイジーとLLブック

「マルチメディアデイジー」の活用

特別な支援を必要とする生徒へのアプローチとして、挿し絵と連動して読みが聞けるCDの応用を考え、調べ学習の補助的教材として取り組み始めた。昨年度、総合学習「東京探検」の単元で、東京スカイツリーへの事前学習でその効果を確認するべく学級で導入してみた。このマルチメディアデイジーの取り組みには、どのような内容を揃えたらよいか学習計画を練る必要がある。デイジーの映像や音声では、説明が文節毎に読んだり止めたり繰り返したりできる利点があり、簡単な映像と説明がセットになっている。これらが、見ること、読むことに特別な支援を必要とする生徒にとっては、事前学習の1つとしての教材となった。今回の総合学習では、その内容から以下の二つを利用した。

利用デイジーCD（東京スカイツリー）（海の中をのぞいてみよう）

「LLブック」の利用

学習教材本「友だちってどんなひと？」（埼玉福祉会）

生徒が本を見て話した本の第一印象と言葉群

- ・かんたんだよ ・ともだち ・よめるよ ・ひと ・はずかしい ・でーと
- ・おにいさん ・おんなのこ ・ともだち ・たくさん など

本の朗読とスピードに関しては、文字が見えやすくページ単位で読みを繰り返すことで、先読みと短期記憶で、ある程度のスピードで読むことができてきた。また、比較的抵抗なく読めるため、この本の特徴として生徒のモチベーションも上っていると思われる。また、一般本や教科書に興味を示す生徒は比較的少ないが、その背景には本に書かれている内容や文字列を追っていく際、難しいと思ひこむ傾向が強い。他の生徒への反応も、このLLブックの例では、上記の発言からも抵抗も少なく読む姿が見られた。

また、思春期特有の「はずかしい」という言葉も拾うことができた。読むことで内容面の理解も進んでいることが伺えた。



写真1 学校司書による本の調べ方の紹介

3. 研究経過

3.1 学習の順序立て

学校司書と担任が協働授業を計画し導入授業を行う事で、学校司書の専門性が生きてきた。また、総合学習の事前学習として取り組んだマルチメディアデジターやLLブックの実践から特別な支援を必要とする生徒の本に向かう姿勢が育ち、調べ学習の方法として、一定の効果が見えてきた。このことを踏まえ、次の様な学習の展開を順序立てて計画した。

3.2 発表会までの取り組み

本校中学部では、ここ数年生徒の学習の実態と数々の教育実践から多くのことを学び、本やインターネットを利用した学習方法の流れをつかむことができてきた。その方向性を検証しつつ、一連の学習方法を確立した（図1参照）次に挙げるのはその「総合学習発表会（東京探検）（関西）」の具体例である。

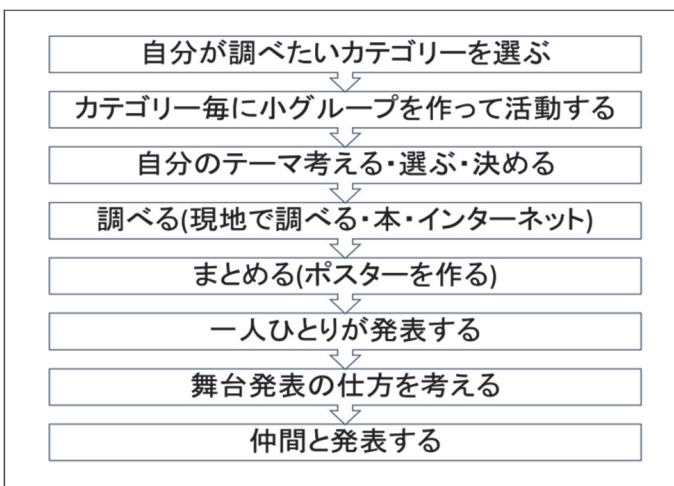
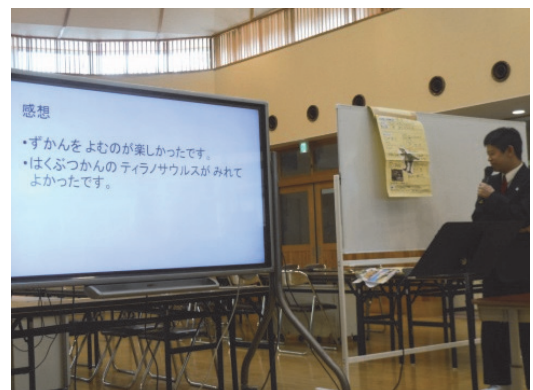


図1 H30年度 本校研究紀要抜粋



3.3 授業作りと評価

今年度は、対象生徒のこれまでの総合学習の記録を追いながらその時点でどの様な学びをしたのかを整理し、今年度の授業作りへと発展させた取り組みを行った。その中で、より学習を深めるために学習評価場面を考慮しながら実践してきた。中学生という多感な時期でもあり、配慮しながら生徒同士の仲間関係の中で、自己評価や相互評価について取り組んできた。また、普段の生活の中でのクラス作りや縦割りの各学習においても授業内での評価場面がより充実するよう展開してみた。興味・関心事をテーマに生徒が主体的に学習に参加し、授業内での評価がどの様に学びに繋がるのかを検証した。生徒同士のやりとりの場面で「いいね」「がんばったね」等、お互いを認め合う言葉のやりとりが、学習をいかに高めていくかについて意見交換ができた。



4. 考察とまとめ

今回の研究ポイントでもある学校司書の協働学習において、司書の方面から見た感想を聞き、次の様であった。調べ学習のキーワードを参考に、大学附属学校司書グループへ依頼を出し、最終的に68冊の資料を借り揃えた。さらに市立図書館の団体貸出を利用し、学校の本と合わせて、100冊近い資料を用意できた。導入の授業では、本の使い方についてガイダンスをする時間があった。図鑑の使い方などは前にもやったが忘れていたので、折に触れ何度も学ぶのが大切であった。植物を調べていた子なども図鑑をうまく使って調べられていたように感じられた。電車の運転席を調べていた子には、マルチメディア DAISY 図書に運転席図鑑が入っていたのも紹介した。DVD 付きの資料などを望む声もあり、やはり説明文を読み取ることは学習の繰り返しが重要であった。

また、生徒一人ひとりの「みる・よむ」あるいは内容を知るという活動の際、LLブック等を利用することで読む力の育成となり補助的な教材として利用価値があることが分かった。特別に支援を必要とする子どもたちの活動では、例えば、本を読む事に関しては次のような特徴もある。発音が同じで意味が異なる二つ以上の語などは若干意味を理解しづらいことが多い。これは、例えば「花」はなや「鼻」はなのように言い、アクセントに気をつけるが、本校生徒の中では、ひらがなで書かれていたりするとそのまま読んでしまったり、聞くことから間違えて書いてしまうこともある。また、同一語の意義が転じたと認められるものが、共時的には別の語と意識されているため、この種の語をも同音語として感じてしまうことなどが特徴である。

また、発表等の場面では、朗読等に慣れていない特別支援学校の生徒は容易ではない。そこで、今回のマルチメディアデージーを利用することによって視覚的に見た文字と音声スピードが変えられる機能によって、読みやすく、聞きやすいスピードで入ってくるため個々の生徒に迫れる利点があった。今回の研究では、幼児・児童・生徒一人ひとりの実態に即し、本に親しむ活動や学習を通して、本を見る力、読む力、中学生及び高校生では発表する力へと繋げる学習を展開した。障害を持つ幼児・児童・生徒の「みる・よむ・発表する」力の育成を目標としたこの研究の継続性が望まれる。 (文責：研究代表 野原)

研究資料

マルチメディア DVD「東京スカイツリーの秘密」「海の中をのぞいてみよう」(伊藤忠財団わいわい文庫)

LLブック「友だちってどんな人？」(赤木かん子著 埼玉福祉会)

附属特別支援学校研究紀要 No.62 (中学部欄) 他